

第2次和泉市都市計画マスタープラン（案）パブリックコメント 募集結果概要 補足説明資料

No.	ページ	項目	ご意見・ご提案の概要	市の考え方
4	22	(3) 和泉市の人口推計	第5次総合計画(案)が上位推計を目指して計画を推進することを受け、本計画においても上位推計を基に計画を推進します。と記載されていますが、総合計画(案)がそもそも実現可能な数字であるかは委員会で検討されたのでしょうか。上位推計の設定条件として合計特殊出生率は平成32年に1.6、平成42年に1.8、平成52年に2.07とされていますが、和泉市の過去の合計特殊出生率は「いずみデータブック2015」によれば平成10年以降の推移では平成11年の1.55が最高で平成17年には1.31まで下降し、その後平成23年には1.48まで回復しましたが、平成24年1.39、平成25年は1.37とまた下降傾向にあります。トリヴェール和泉の開発があってもこの数字ですから、今後新たなニュータウン計画でもない限り、この数字は机上のものとなる可能性があると思いますが、委員会ではこの点についてどのような議論がされたのでしょうか。	和泉市都市計画マスタープラン策定委員会において、第5次和泉市総合計画(案)を受け本マスタープランも上位推計を基に計画を推進する旨を説明いたしましたが、特に意見はございませんでした。

市の考え方についての補足説明

和泉市では、平成27年12月に和泉市人口ビジョンを策定し、上位と下位の人口推計を行っております。上位推計の設定条件ですが、国の「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」において示された合計特殊出生率（平成32年1.6、平成42年1.8、平成52年2.07）が達成するとともに、平成32年以降、社会動態が均衡（転出者数と転入者数が同数）すると仮定した場合の推計となります。

国のまち・ひと・しごと創生「長期ビジョン」と「総合戦略」においては、人口減少に歯止めをかけるため、国と地方が総力を挙げて取り組む方針が示されると同時に、2060年に総人口1億人程度を確保し、その後2090年（平成102年）頃に人口が定常状態になる将来推計のモデルが示されています。

また、国からは、国が定める基本目標との関係をしっかりと整理した目標を設定しつつ、地域の特性を踏まえた「地方人口ビジョン」と「地方版総合戦略」を策定し、その目標の実現に向けた取組みを自立的に進めていくことが強く要請され、市では、「和泉市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定し、この取組みを着実に進めることによって、人口の社会減・自然減を抑制し、将来人口の目標を国の将来推計に準じた上位推計としているものです。市の最上位計画である第5次和泉市総合計画では、和泉市人口ビジョンの上位推計の将来人口を目指して計画を推進するとしております。

第2次和泉市都市計画マスタープラン（案）についても、上位計画である第5次和泉市総合計画を受け、上位推計の将来人口を基に計画を推進するものです。